

マルサン(東北プロダクトワークス、福島県二本松市、前田英俊社長)は月間6000坪の加工能力を持つ東北地区の木造軸組プレカット大手だが、早くから住宅市場の縮小を見据え、2×4パネル供給、吹き付け断熱材の施工と多角的に事業を展開してきた。

前期(15年2月期)

の売り上げは駆け込み需要の反動で前々期比15%減少したが、今期は5月まで前年同期比8%増と堅調で、通期では前期比10%増を指している。

今年3月には主要加工機を入れ替え、生産体制を刷新。従来の生

産能力を維持したまま、工場の省人化、省エネ化を実現した。

具体的には既設の横架材加工機と柱・梁兼用の金物工法加工機を撤去し、金物工法に対応した横架材専用の並

これにより、従来は

3台で7人(2シフト、多種加工機は1シフト)を必要とした横架材加工の人員が1台1人(2シフト)で済むようになっ

た。さらに集塵機を省

機械設備は、ほかに

2×4兼用の羽柄材加工機2台、合板加工機1台、パネル製造ライン1ラインがあり、2×4パネルは月間800坪を手掛ける。すべ

## 横架材ライン刷新し、生産効率化

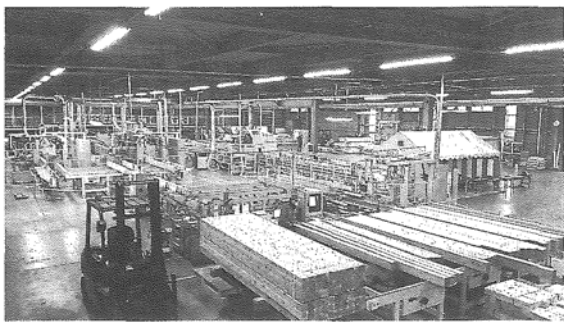
### 事業の多角化で成長図る

#### マルサン

列ラインを導入。既存の多種加工機もインライン化した。柱・梁兼用の機を撤去によって不足した柱材の加工能力は既設の柱材加工機にユニットを付加するこ

とで補った。競争力強化につなげ

エネ型に付け替えたことでパネルのため生産量はさほど多くないが、は従来に比べて4割、アパートが中心の受注は消費増税後も軸組ほどには落ち込まず、安定稼働を維持している。



新設した横架材加工の並列ライン。金物工法にも対応し、既設の多種加工機もインライン化した

した住宅大手の受注が伸びているため、今後は一般物件にも広がる可能性はありと見ている。

も大手住宅会社向けに(用車)3台で月間40棟を手掛けているが、一般物件でのニーズは少ない状況も、ビジネスにはなりにくいという。ただ、県内では職人不足を背景にパネル工法を採用

日本アークの施工店を務める断熱材事業は専用トラック(機械を積載した専